

学校教育目標	豊かな感性、たくましい心と体、自ら学ぶ意欲を持つ子どもの育成
育成を目指す資質・能力	言語能力(表現力・コミュニケーション能力)、問題発見・解決能力

	学力状況について	学習状況について
児童生徒の課題	<b>各種学力調査の分析結果から明らかになった課題</b> 6年生の全国学力・学習状況調査では国語・算数ともに全国・県の平均値を上回った。漢字の定着にやや難がある。 5年生の県の学力定着状況調査では算数が県の平均値を下回った。計算が苦手という側面がみられる。 1年生から4年生は単元末テストの結果の平均値が「80点以上が80%」に少し届いていない。	<b>各種学力調査の分析結果から明らかになった課題</b> 6年生は学習に対して意欲的である。5年生は、学習規律の確立に向けた努力を継続し、かなり向上してきている。学年により差があることが課題。 学校評価アンケートでは「規律順守」95.2%、「ノートの活用」96.1%、「家庭学習」96.7%という結果だった。全校的に算数が苦手な傾向が依然として続いている。
	<b>これまでの学力向上の取組に対する児童生徒の状況(授業及び授業以外の側面から)</b> ・学習規律がの確立が学級によって少し差がある。語先後礼等、小中一貫教育で確認した取組を徹底している最中である。 ・友だちの意見を聞いたり、自分の考えを述べたりすることが苦手。討論などで自分の考えを表現することも苦手。 ・読解力が弱い部分があるので、図書の読書量を増やしていく必要がある。学校評価アンケートでも「進んで読書をしている」と答えた児童は80.9%とアンケート中最も低い状況である。	
指導の状況	<b>1 組織的な授業改善の取組状況</b> ・1時間完結型の授業を全教職員が意識して行った。児童が見やすい板書の構造化、ノートの活用については取組が十分でできなかった。ノートの書き方については現時点で個人差が大きい。 ・国語と算数では1時間に1回はペア・グループ学習に取り組みさせた。言いつばなしになることが多く、「練りあう」学習になっていない。 ・自分の考えをもたせることはできたが、考えを書く活動を十分に仕組むことができなかった。 ・算数の時間に、前学年までの既習事項の振り返り等を授業の中に位置付ける取組は、学年によって差が出た。  <b>2 その他の学力向上に向けた指導の取組状況</b> ・学習規律の確立については、方向性は確認したが、全員が同じ足並みで進むことは難しかった。 ・読書活動に進んで取り組みさせることについては、図書館支援員の先生の「うちどく」の取組のおかげで、かなりの成果が見られた。 ・習熟度別の学習は全校的にはなかなか進まなかった。個別指導については、時間の捻出が難しい。 ・ICTを活用した授業には率先して取り組めたが、家庭への一人1台端末の持ち帰りなどが十分にできなかった。	

学力に関する達成指標

- ・単元末テスト(国・算)において80点以上の児童を80%以上にする。40点未満の児童を8%以下にする。
- ・学校評価アンケートで「授業がよくわかる」と答える児童の割合を95%以上にする。
- ・3年生以上の一人1台端末の家庭への週末持ち帰りを100%にする。

	【授業改善】	【家庭・地域との協働】
今後の具体的な取組	<b>〈授業改善のテーマ・重点〉</b> (授業改善テーマ) 自ら考え、伝え合う子どもの育成 ～思考を促す発問や課題の提示の工夫～ (授業改善の重点) ①課題とまとめが連動した、問題解決的な授業の推進 ②ペアやグループ学習を活用した対話的な授業の推進 ③ICTを活用した授業の推進	<b>【家庭・地域との協働】</b> ○保護者の学校評価の平均値を60%以上にする。
	<b>〈取組内容〉</b> ①「めあてと振り返り」「課題とまとめ」が連動する分かりやすい授業を行う。 ・思考を促す課題や発問の設定(ゴールをイメージした課題の設定) ・学習意欲が持続する課題の設定 ②板書の構造化、ノートの一体化を図る。 ③生徒指導の三機能をいかした、児童が主体的に取り組める授業を行う。 ・学習規律の確立。(自己存在感) ・自分の考えを持つ。自分の考えを書く。(自己決定の場) ・ペアトークやグループトークによる考えの交流。(共感的人間関係づくり) ④ICT機器を活用して意見交換や表現を行う。また家庭学習にICT機器を活用する。 ⑤図書館の蔵書を使って調べ学習に取り組ませる。読書活動の充実。	<b>〈家庭・地域の取組内容〉</b> ①保護者と連携した家庭学習。 ②ノーメディアデー(水)の徹底。 (「うちどく記録カード」の活用) ③読書活動の充実。 ④「すぐーる」による学校情報の発信。 ⑤学校ホームページの工夫による学習指導・生活指導の啓発。
	<b>〈取組指標〉</b> ・校内研修の充実 ・互見授業の実施(全員) ・小中一貫教育の取組。(年3回の植田南中学校区小中合同研修会の実施。) ・思考を促す課題や発問の工夫を行う。 ・算数の授業の始めに「振り返り学習」として前年度までの課題を2～3問解く。 ・自分の考えをノート等に書ける児童の育成。 ・毎時間1回は、ペアやグループ学習を行って意見交換をする。 ・ICT機器の使用を充実させる。3年生以上は週末は一人1台端末を持ち帰らせる。 ・授業で読書活動の時間を設ける。図書館利用の回数や読書数を増やす。	<b>〈家庭・地域の取組指標〉</b> ・学期に1回、家庭学習調査を行い、家庭学習の取り組み状況を把握する取り組みを継続する。 ・学級懇談会や学年通信等を通して家庭と連携する。 ・「すぐーる」やHPで学校便りを発信したり、アンケート結果を知らせ、協力を呼びかける。 ・HPに学習・生活面で教育情報の発信をする。
	<b>〈検証指標〉</b> ・互見授業の実施率を100%にする。「他学年の授業を1回以上は参観する」を100%にする。 ・学校評価アンケートにおいて「学校の授業がよくわかる」を95%以上にする。 ・子どもによる学校評価アンケートにおいて「授業中に課題やまとめをノートにきちんと書いている」で達成率年間95%以上を継続する。 ・職員の自己評価の「基礎・基本の学力の定着と向上、低学力層の底上げを図っている」で95%以上をめざす。(2学期90.6%) ・図書館の蔵書を使っての調べ学習を積極的に行う。 ・水曜日のノーメディアデーの点検を兼ね、「家読(うちどく)」の取組を徹底する。	<b>〈家庭・地域の検証指標〉</b> ・保護者による学校評価アンケートにおいて「ゲームやテレビの時間を守る」を60%以上にする。(現状59.9%) ・「読む力、書く力を身に付けるため、読書などに取り組み、文字に親しんでいる」を50%以上にする。(現状47.1%)
	<b>【授業改善以外の学力向上の取組】</b> ①生活のきまりを守る。規範意識の高揚。(小中一貫教育と連動した教育活動) ②ノーメディアデーの取組。(読書活動の充実による、読む力の向上) ③基礎基本の学力を定着するための家庭学習の工夫。	